



令和4年6月6日
NO. 5

① 今年度最初の研究授業ありがとうございました！

6月3日、今年度最初の校内研究授業を行いました。提案して下さった高学年ブロックの先生方、授業して下さいました宮良先生、ありがとうございました。日程的にも厳しかったと思いますが、前回学んだエデュスクラムというプログラムを授業に取り入れ「落六版の解体新書をつくる」内容として提案していただきました。純粋に疑問をみつけ付箋に書き出していき姿から、この後の活動が楽しみになる授業でした。ありがとうございました。



当日のオーダーシートと併せて、4年生の先生方がとってくださった記録を以下の場所に入れております。併せてご覧ください。

「01 校務」 → 「07 研究」 → 「令和4年」 → 「研究授業」 → 「6年授業 (0603)」

② 教科コンバイン型プログラムについて

今まで「教科コンバイン型授業」とお伝えしていましたが、「授業」ではなく「プログラム」で考えるようにと、中田先生からお話をいただきました。つまり、「その授業だけで考えるのではなく、題材開発研究で考えましょう。」ということです。これはなかなか大変なことですが、今回の授業「理科や社会を基本とし、総合的な学習の視点で落六版解体新書をつくる。」のように考えるとよいのかもしれない。



また、コンバインは、バインダーの機能に脱穀と選別の機能を加えた「農業用語」のように考えていたのですが、これも英語で「組み合わせる・結合させる」という意味の「combine」をもとに考えるということでした。

これを踏まえ、一つの題材を分解して組み合わせたり、他の教科と結合させたりすることで、より学びが子どもにとって自分事になる授業を考えていくことができるかと思えます。



また、「コンバイン型プログラム」の定義・学びを本校なりに考えていく必要があります。とは言え、みんなで考える時間も限られているので、叩き台として以下のようにこちらで考えてみました。とりあえずの文言ですので、まだまだ検討する必要がありますが、授業や皆様からの提案をもとに修正し、今年度末には完成できるようにしていきたいと思えます。どんどんご意見下さい。

落六版「コンバイン型プログラム」の定義（案）

- ① 現代社会の課題により密接にかかわれるように、複数の教科を組み合わせたり、教科では補えない部分を明確にしたりして、取り組むことで違う視点で物事にかかわり、より学びが深まるプログラムを計画する。
- ② 教師が主導で進めるような内容ではなく、子どもが自分で考えて調べることで学びが進むような内容にする。教師はアドバイザーとして子どもの思いを尊重したり、専門の先生を巻き込んで違う視点を提示したりする。
- ③ 自分事で取り組めるテーマ・ゴールの設定と学習計画の立案後、自分で調べたことをもとに友達と関わる中で解決し、成果を可視化して整理することで問題解決の連続性をつくり、探究的な学びができるような活動にする。

③ 次回研究授業について

次回研究授業は6月21日（火）に3年生理科「風やゴムのはたらき」で行っていただきます。それにあわせ指導案検討を6月9日（木）の放課後に行えればと思えます。研推のメンバーに限らず落六小として検討していただくとよりよいかと思えます。是非ご参加下さい！